

柿 生 文 化

柿生郷土史料館 情報・研究誌
 住所：川崎市麻生区上麻生 6-40-1
 柿生中学校内
 電話：070-1503-6401/044-988-0004
<http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo>
 第 180 号

草創期の柿生
 中学校-補遺

その1 30人の中学3年生

小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

「草創期の柿生中学校」のシリーズは、柿生中学校の創立 70 周年(2017 年=平成 29 年)を記念して、2018 (平成 30)年 9 月号から 2021(令和 3)年 8 月号まで、断続的に 18 回にわたって『柿生文化』に連載したものです。この記事が『タウンニュース(麻生区版)』の編集者の目に留まり、同紙の「柿生文化を読む」のシリーズに再掲させてほしい旨の申し出を戴きました。申し出を受ければ、『柿生文化』の読者の範囲を越えて、広く麻生区内で新聞を定期購読されている皆様にも目を留めていただく機会にめぐまれるのですから、筆者にとって悪い話ではありません。というのも、草創期の卒業生の皆様の回顧談やご提供いただいた手作りの卒業アルバム、今に続く文集『うれ柿』などと創立十周年を皮切りに 10 年単位で編纂されている記念誌の記事を突き合わせてまとめた記事ですから、私の理解不足から一部に誤りや不十分で舌足らずの記載があることを自覚していたからです。

『タウンニュース(麻生区版)』の読者、とりわけ 80 代後半から 70 代後半にあたる初期の柿中卒業生の皆様やご家族の皆様から、多少でもリアクションを戴けるならば、こんなに有り難いことはないですから、喜んで再掲載に応じる旨を伝えました、こうして昨 2022 年の 6 月から、同紙に連載されるようになったのです。同紙によりますと、卒業生の皆様やご家族の皆様からの反響が大きいそうで、お叱りを含めて有難いことと私も喜んでおりました。そんな中、3 月初めに、細山にお住いの土方工作様とご子息の進一様から耳よりの情報が寄せられたのです。それは全く思いがけない情報でした。

1947(昭和 22)年 3 月に高等科を卒業した柿生地域の 30 人の若者が、新制中学校 3 年生として生田中学校に電車通学をしたというのです。驚いて生田中学校の HP を覗いて見ると、1948(昭和 23)年 3 月に第 1 回卒業式を行い 98 名の卒業生を送り出した旨の記載がありました。新制中学校の開校初年度に 3 年生を受け入れるには、収容する建物と調度類、それに教員の手配が欠かせません。それゆえ生田中学校のケースは、全国的にも極めてまれなケースだったのです。

文部科学省の HP や教育委員会の HP を開いてみても、新制中学校開校初年度の 3 年生については何の記述もありません。それもそのはず、国土の主要部分が焦土と化した敗戦国日本には、初等教育たる小学校の校舎や備品をそろえることすら満足にできない状態にあったのですから、高等小学校の課程を終えた卒業生は、文部省が面倒を見る対象ではなかったのです。1948(昭和 23)年に開校する新制高等学校を受験したいなら自分で準備して受ければ良いという態度だったのです。各地の新制中学校で、最初に行われた卒業式がいつかを調べても、初年度に第 1 回卒業式を行った学校は限られており川崎市域では生田中学校だけなのです。

生田中学校がどのようないきさつから国民学校高等科の卒業生を受け入れたのかは、皆目見当がつきません。ただ 3 年生をも受け入れ可能な広い建物を身近に確保できる環境にあったことは事実です。戦時中の生田国民学校(小学校に当たります)は、軍の施設である登戸研究所の近くにありました。広大な施設を持つ登戸研究所は、当然米軍の爆撃の対象となり大きな被害を受けていましたが、一部に窓ガラスは割れ、扉も失われ、どこからでも出入りできるが雨露は防げるがらんだ建物を残していました。これを利用しない手はないと、施設の残骸を子どもたちの教育の場として使用したいと GHQ の許可をとったのです。こうして誕生した生田中学校は、3 年生をも受け入れたのです。生田中学校には、現在の多摩区と麻生区、一部高津区などから、高等科を卒業してもう少し学業に励みたい若者が 3 年生としてやってきたのです。その数全体で 98 名、その内 30 名が柿生国民学校高等科の卒業生だったのです。

土方工作様は、卒業後長い間同窓会長を務められ、その職責を果たしつつ、何もないところから今に続く生田中学の基礎を築いた誇りをもって、生田中 1 期生 98 名の名簿を作成し、現在もなお一部を修正しながら大切に保管していらっしやったのです。名簿にある 30 名の通学性の氏名は、次号に掲載いたしますが、黒川や早野からの通学生が複数存在した一方、王禅寺や岡上からの通学生は 1 人もありませんでした。

続く(「白井義胤翁を訪ねて」は休載いたします。)

シリーズ
麻生区の地名 その5

早野の地名

菊地恒雄(日本地名研究所 研究員)

早野の地名由来はわかりません。『川崎地名辞典』には、稗野(ヒエノ)と呼ばれていたが、ヒエノが方言的变化でヘエノと呼ばれ、それが転じてハヤノとなったという説と、古代の勅使牧の「石川の牧」に関係する駿馬の生産地であったところから、駿馬=ハヤウマの馳せめぐる野ということでハヤノになったという説を載せています。また、この地域が早くから切り開かれたと考えるとハラノがハヤノに転訛したとも考えられます。地形から見ると鶴見川が氾濫した蛇行の跡に村が切り開かれたと思われ、この地点で鶴見川が大きく向きを変えていることから説明が付きまます。

村の西側を、王禅寺村日吉付近を源流とする早野川が流れて下麻生と早野の村境の小名堀向付近で鶴見川に合流しています。早野で最も広い土地を占めることから広地(こうち;右図①)と呼ばれますが、本来は耕地の意味でしょう。現在は早野営農団地として市街化調整区域に指定され、圃場が整備されています。

広地の北に子神社(ネノカミシヤ)があり、この付近を富士山下②とといいます。梅ヶ谷(ウメガヤト)の山の上に浅間社があり、その山の下という意味です。浅間社は大正 10 年に子神社に合祀されています。子神社は早野の村社で祭神は大己貴命(おおなむちのみこと)で大国主命の別称ですから、開墾の神です。

早野から王禅寺に続く丘陵地に向かって大小の谷戸が深く入り込んでおり、その谷戸には灌漑用の池が現在でも 7 つ確認できます。梅ヶ谷③には上ノ池(上谷池)と五郎池があります。大きな谷戸で山を切り崩して田を作ったところから埋めヶ谷と呼ばれ、梅ヶ谷と表記するようになりました。

中ノ谷④は中ノ谷池(中谷池)を中心とする地域で、現在は市営早野聖地公園として整備され、墓地団地が奥まで続きます。その聖地公園入口に林ヶ池があります。

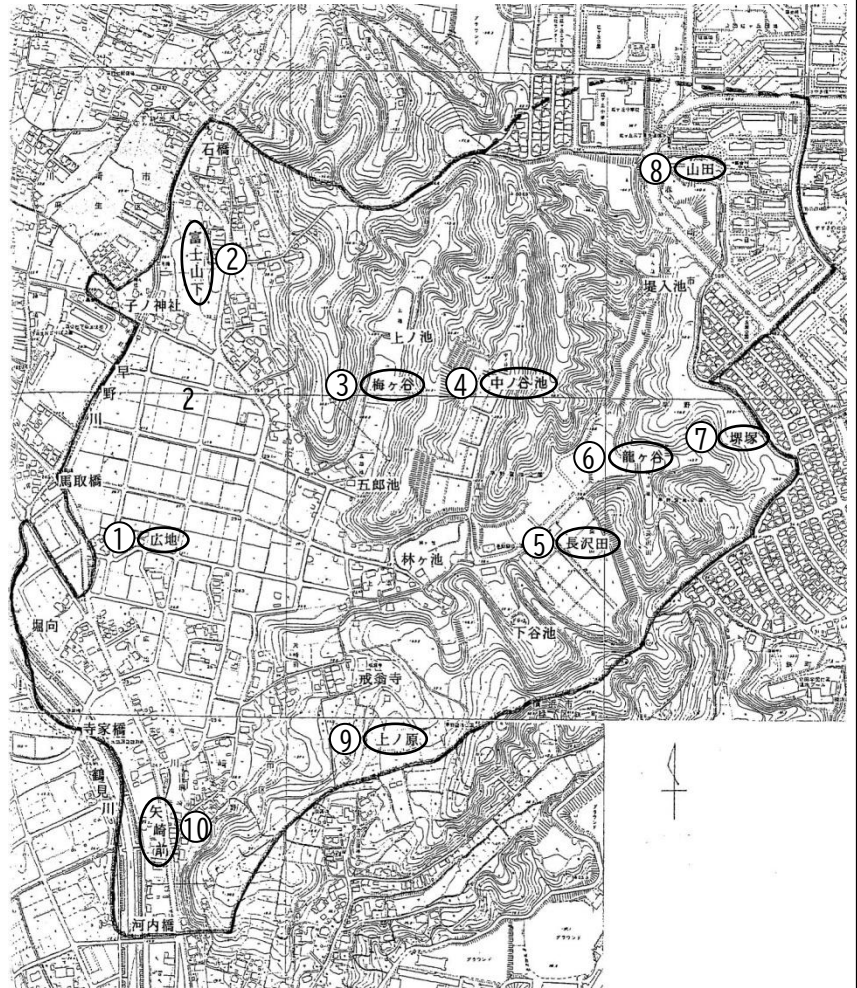
長沢田⑤には下ノ池(下谷池)と竜ヶ谷池があり、小名に龍ヶ谷⑥と呼ばれた地域です。この場所も早野聖地公園として整備されています。長沢田には複数の小谷戸があり、坊主谷や木綿谷などの名が伝えられていますが、地形が変わってしまい見ることができません。

横浜市緑区もみの木台に接する所に塚塚⑦の地名があります。黒須田境の山に塚があったことに由来し、塚山とも呼ばれていました。疫病や災いが村に入り込まないように願うための塚だと思われます。

虹ヶ丘団地のある地域は山田⑧と呼ばれ、横浜との境が複雑に入込んでいたため、現在は道路を境に住居表示が変更されました。山田の崖下には堤入池(ツツミイレイケ)があり、林ヶ池に通じています。

上ノ原⑨は緑区鉄(クロガネ)境にあり、上ノ原の名前の通り、台地状の地域です。ここには曹洞宗の戒翁寺があり、平安初期にすでにあったといわれる観音堂に由来する観音山があり、天正年間には曹洞宗戒翁寺として開かれたといえます。また、地頭の富永氏に関する五輪塔や墓山などの伝承が伝えられます。また、近くには稲荷社や第六天社・神明社などがあったところから、『新編武蔵風土記稿』には、村の中央地頭林とあり、上ノ原は村の中心であったと思われます。

矢崎前⑩は鶴見川に面した地域で小名矢崎とほぼ同地域と思われます。矢は川の速い流れで崎は先端でもありますが、前とも考えられ、鶴見川に常に影響された地域で、流路が変わる度に土地の形が変化したところ です。



『川崎地名辞典(下)』の早野村より

シリーズ
教育の歩み 番外編

ゆとりの教育をめぐる(6)

小林 基男 (柿生郷土史料館専門委員)

事実現場は混乱しました。小学校はホームルーム担任制(学級担任制)ですから、「総合的な学習の時間」もクラス担任が担当することでまとまります。高学年の一部教科以外は、全て担任の教師が担当していますから、教科横断的な指導も比較的やりやすいのです。しかし中学や高校ではそうはいきません。教科担任制が壁になるのです。「総合的な学習の時間」はどの教科にも属さない、教科の枠を超えた時間です。教科書もなく試験も行っていない時間を、いったい誰が担当するのか？ 対応は学校によってマチマチになりました。担当を学級担任に任せた学校では、図書館を解放して生徒の自主性に任せる措置をとった学校が多数を占めました。文部省改革派が込めた狙いからは、最も遠い結果に終わってしまうところが続出したのです。教科横断的な学習が求められたのですから少なくとも同一学年の担任集団と当該学年の教科担当者がスクラムを組んで、生徒たちにチームを組ませたり、調べの方向について示唆を与えたりする柔かな指導が必要だったのです。教員集団にとっても、日頃交わることの少ない他教科の授業内容に関する知見を広め、個別化細分化した知識を総合してこそ、高い知見が得られることを認識するチャンスでもあったのです。

学ぶことは、そして知とは本来総合的なものです。真理の追求の課程で追求の分野が次第に分離し、まずは自然科学と人文科学が、さらには社会科学が分離することになり、さらに三つの分野にいくつもの個別科学が並び立つようになったのです。自然科学は物理学や化学、生物学や地学などが並立し、さらにいくつもの分野に枝分かれして成長してきました。社会科学も古くから存在した法学を筆頭に経済学や社会学、経営学、政治学などが分離独立し、人文科学も哲学を筆頭に、文学や美学、地理学や歴史学に民俗学、さらには民族学などが、個別科学として成長してきた歴史を辿ってきました。しかし細分化の行き着いた結果、最近では各分野の境界領域に関心が向かい、いくつかの分野が協同して学際的な研究プロジェクトが組まれるケースが増えています。諸大学の学部構成も大きく変わり、学問の総合化を目指す学部への再編が加速しています。

別表第2 (第73条関係)

「総合的な学習の時間」は特に中学校や高等学校においては、教科毎に学んだことを他教科の学習に活かすことなど意識せずに、夫々の3年間を過ごすのではなく、教科別の学びを別の教科の学びや学校の外の出来事に応用すると何が見えるか、学校での学びは社会生活でどう生かせるのかといった、学びの面白さや学びの本質を生徒たちに知ってもらう

区 分	必修教科の授業時数									特別の 徳の教 科で ある 授業 時数	総合的 な学 習の 授業 時間	特別 活動 の授 業時 数	総 授 業 時 数
	国 語	社 会	数 学	理 科	音 楽	美 術	保 健 体 育	技 術 ・ 家 庭	外 国 語				
第1学年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	50	35	1015
第2学年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	70	35	1015
第3学年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	70	35	1015

備考 この表の授業時数の1単位は、50分とする。

のに絶好の時間だったのです。教科別の学習に横串を通すとはこういうことでした。結果として「総合的な学習の時間」はそうした役割を果たせませんでした。その結果「ゆとりの教育」で学力が下がった。「総合的な学習の時間」など無駄な時間ではないかといったマスコミが醸成した世論の声に押され、文部科学省は軌道を修正し、平成29年(2017年)に告示した令和3年(2021年)完全施行の「学習指導要領」では、上の表のような時間配分となり、国・社・数・理・英の5教科の授業時間数が増え、その分選択教科はゼロなり、「総合的な学習の時間」も大幅に縮小されたのです。

続く

『王禅寺村 御用留記帳』販売のお知らせ

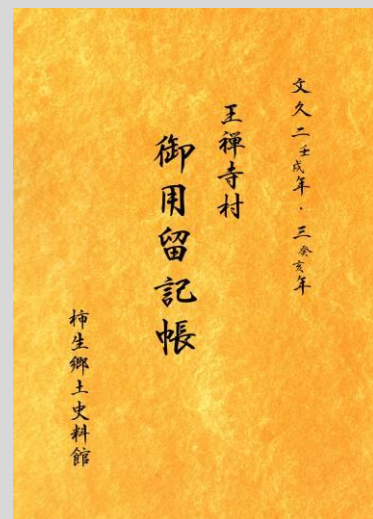
第178号でお知らせした『王禅寺村 御用留記帳』について、史料館の開館日(次ページ案内参照)に、受付にて販売いたします。

郵送ご希望の方は、葉書にて下記宛、またはホームページお問い合わせから、住所・氏名・連絡先電話番号と希望冊数を明記してお申し込みください(代金は書籍同封の振込先への後払い)。

〒215-0021 川崎市麻生区上麻生6-40-1 柿生中学校内 柿生郷土史料館

販売価格は 1冊 1,000円 (郵送の場合は、送料込み 1,400円)。

お問い合わせ:同ホームページか史料館専門委員の小林(080-5513-5154)まで
なお、5月14日(日)、6月3日(土)は休館です。



柿生・岡上の
地域文化財

片平 旧神谷齒科

林 憲吾(東京大学生産技術研究所)

令和3年に川崎市の地域文化財(有形文化財)に登録された片平の旧神谷齒科は、昭和30年(1955)2月に建設された築68年の円形のコンクリートブロック造住宅である(写真1)。齒科医であった神谷謙遜氏のご家族5人が住み、昭和30年代後半からの一時期は齒科診療所としても利用



写真2. 昭和30年代頃の建物と周辺の様子

された。当時の片平は一面田畑。小高い敷地の上に、円い近代的な建物が不意に現れたことがよくわかる当時の写真が残されている(写真2)。

「まるうち」とも呼ばれたユニークな外形に加え、内部の小屋根組がまた独特である。中心に細い鋼管が一本立ち、その上部に木製の梁と垂木が放射状に整然と並ぶ。その姿はまるで唐傘を広げたようである。中央上部には小塔が付き、明かり取りとなり陽が差し込む。直径およそ7m、約20畳のこの小さな円形空間を、当初は居室、台所、トイレに区切って家族5人で使った。一昨年、私どもが改修工事のため、それら間仕切りを取り払い一室空間にしたところ、まるで

モンゴルのゲルを想わせる空間になった(写真3)。

ちなみに、風呂はのちに増築するまでは室内になく、当初は庭の井戸端でドラム缶の露天風呂に入ったそう。この井戸も長く使われずに残っていたが、一昨年、麻生区の白山神社の池田貞明宮司に祈祷をお願いして、埋め戻しを行った。

設計者は、建築家で、謙遜氏の弟にあたる神谷正信氏。昭和16年に日本大学専門部工科(現日本大学工学部)の建築科を出て、戦前は満州にわたった。終戦後に東京で建設会社と設計事務所をはじめ。他方、兄の謙遜氏も戦前は満州にわたり齒科医として働き、終戦を迎えたが、医師は貴重であったため中国側に引き止められ、引き揚げは昭和28年と遅かった。帰国後、親戚の家を転々と間借りしていた兄を不憫に思い、正信氏が片平に土地を見つけ、設計したとされる。住宅の完成と片平での新生活のスタートは、謙遜氏にとって新たな戦後のはじまりとなったであろう。

なぜ円なのか。戦前に大陸でゲルをみたかどうかは定かではないが、本人はある著書で、同じ面積で外回りの一番短い図形として円を紹介している。壁が少なければその分材料は少なくて済む。そんな合理性を追求したわけだ。

だからと言って、安普請だったわけではない。むしろコンクリートブロックは先端的な材料であった。鋼管や合板など工業製品が多用されているが、今となってはありふれた材料も、戦後の混乱が落ち着く昭和25年頃まではなかなか使えなかった。戦後復興から高度成長へと移るこの時代を象徴する建物なのだ。

令和3年に所有者が変わり、現在は改修工事中。個人宅であるため常時公開は難しいが、イベント開催など、ときどき地域に開いた使い方をしたいと考えている。

かつてこの建物で齒科診療を受けられた方など、昔のご記憶がある方はぜひ情報をお寄せください。



写真1. 旧神谷齒科外観(令和4年1月 撮影:浅川敏)

わかる当時の写真が残されている(写真2)。

「まるうち」とも呼ばれたユニークな外形に加え、内部の小屋根組がまた独特である。中心に細い鋼管が一本立ち、その上部に木製の梁と垂木が放射状に整然と並ぶ。その姿はまるで唐傘を広げたようである。中央上部には小塔が付き、明かり取りとなり陽が差し込む。直径およそ7m、約20畳のこの小さな円形空間を、当初は居室、台所、トイレに区切って家族5人で使った。一昨年、私どもが改修工事のため、それら間仕切りを取り払い一室空間にしたところ、まるで

写真2. 昭和30年代頃の建物と周辺の様子

された。当時の片平は一面田畑。小高い敷地の上に、円い近代的な建物が不意に現れたことがよくわかる当時の写真が残されている(写真2)。

「まるうち」とも呼ばれたユニークな外形に加え、内部の小屋根組がまた独特である。中心に細い鋼管が一本立ち、その上部に木製の梁と垂木が放射状に整然と並ぶ。その姿はまるで唐傘を広げたようである。中央上部には小塔が付き、明かり取りとなり陽が差し込む。直径およそ7m、約20畳のこの小さな円形空間を、当初は居室、台所、トイレに区切って家族5人で使った。一昨年、私どもが改修工事のため、それら間仕切りを取り払い一室空間にしたところ、まるで

モンゴルのゲルを想わせる空間になった(写真3)。

ちなみに、風呂はのちに増築するまでは室内になく、当初は庭の井戸端でドラム缶の露天風呂に入ったそう。この井戸も長く使われずに残っていたが、一昨年、麻生区の白山神社の池田貞明宮司に祈祷をお願いして、埋め戻しを行った。

設計者は、建築家で、謙遜氏の弟にあたる神谷正信氏。昭和16年に日本大学専門部工科(現日本大学工学部)の建築科を出て、戦前は満州にわたった。終戦後に東京で建設会社と設計事務所をはじめ。他方、兄の謙遜氏も戦前は満州にわたり齒科医として働き、終戦を迎えたが、医師は貴重であったため中国側に引き止められ、引き揚げは昭和28年と遅かった。帰国後、親戚の家を転々と間借りしていた兄を不憫に思い、正信氏が片平に土地を見つけ、設計したとされる。住宅の完成と片平での新生活のスタートは、謙遜氏にとって新たな戦後のはじまりとなったであろう。

なぜ円なのか。戦前に大陸でゲルをみたかどうかは定かではないが、本人はある著書で、同じ面積で外回りの一番短い図形として円を紹介している。壁が少なければその分材料は少なくて済む。そんな合理性を追求したわけだ。

だからと言って、安普請だったわけではない。むしろコンクリートブロックは先端的な材料であった。鋼管や合板など工業製品が多用されているが、今となってはありふれた材料も、戦後の混乱が落ち着く昭和25年頃まではなかなか使えなかった。戦後復興から高度成長へと移るこの時代を象徴する建物なのだ。

令和3年に所有者が変わり、現在は改修工事中。個人宅であるため常時公開は難しいが、イベント開催など、ときどき地域に開いた使い方をしたいと考えている。

かつてこの建物で齒科診療を受けられた方など、昔のご記憶がある方はぜひ情報をお寄せください。



写真3. 改装工事で一室空間となった内観

(撮影:浅川敏)

柿生郷土史料館催物案内

【参加自由、入場無料】

◎開館日:5月7・21・28日(毎日曜日)

6月10・17・24日(毎土曜日)

◎開館時間:午前10時~午後3時

第86回
カルチャーセミナー

戦後の教育改革と新制中学校

~柿生中学校と生田
中学校を中心に~

日時:5月28日(日) 13時30分~15時

講師:小林基男氏(柿生郷土史料館 専門委員)

会場:柿生郷土史料館特別展示室

生田中学校には3年生もおりました。これは全国的にも稀なケースでした。なぜでしょうね?